

「法人本部」 令和 2 年度事業計画

1. 法人概要

- 「榎島福祉の園」、「志津川福祉の園」、「宇治川福祉の園」の3施設を中心に知的障害者の福祉サービス業を営み、28年目を迎えている。「地域生活支援室」のもとに「グループホーム巨椋」及び「ショートステイ巨椋」の開設を図り、手狭になっていた「居宅介護わくわく」の事務室移設も済ませた。これで、利用者の地域移行と定着に向けた一定の環境を整えることができた。利用者120名余り、職員90名を超える中堅法人として、市の障害福祉施策の一翼を担っている。

2. 計画趣旨

- 法人収支は、ここ数年赤字基調であり、早期に経営基盤の見直しを図ることとする。
- そのため、収支の課題を抽出し、その解決に向けて積極的に取組みを推進する。
- 重要と思われる施設事項や施設を超える事業は、法人の事業計画にも加え、共に連携して対策を講じることとする。
- 又、施設とともに地域貢献を進める。

基本方針	事業計画 (Plan)		
	項目	内容 [数値・実施時期等]	実施責任者
サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 業務体制の強化 就労支援事業の見直し 旧渡辺製袋建物の有効活用 中期経営計画の実行 	<ul style="list-style-type: none"> グループホームの休日業務体制を整備する。 就労支援事業への施設会計の繰入削減を検討する。 旧渡辺製袋建物の活用前検査を検討する。 中期経営計画に従った事業運営に向け、しっかりとした進行管理を行う。 	随時 管理職員
事業基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービス事業の見直しと拡充 施設建物、設備等の計画的補修 職員体制の増強 下水道の切り替え 	<ul style="list-style-type: none"> 「榎島福祉の園」の就労B型事業単一化を機に「宇治川福祉の園」の生活介護事業単一化の検討を進める。 経年劣化等による施設、設備などの補修計画をたてる。 施設修繕積立基金の醸成を図る。 ホームページによる求人情報の増強を図る。 下水道切り替えの費用負担を市と調整する。 送迎車の効率活用と減車を検討する。 	随時 管理職員
職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修の体系化 管理職の経営的視点の醸成 職員のやる気の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉人材育成認証を継続させる。 管理職の人事管理、収支管理の力量を高める。 資格手当の支出を継続する。 職員の異動希望や希望業務の聴取を継続する。 働き方改革を進める。 外部研修へ積極的に参加する。 	随時 管理職員
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流、地域活動等の推進、協力 小中学校の福祉教育への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事に積極的に参加する。 福祉教育を積極的に受け入れる。 高齢者施設との交流を図る。 地域美化への取組みを強める。 地域ボランティア活動に対する専免活用を積極的に図る。 	随時 全職員
その他	<ul style="list-style-type: none"> 人件費等抑制 	<ul style="list-style-type: none"> 振替休日を徹底する。 福利厚生事業を見直しを検討する。 時間外勤務をできる限り縮減する。 	随時 全職員

「榎島福祉の園」2020年度事業計画

1. 施設概要

定員：就労継続支援B型 35名 （2名の入所者を迎え、現33名での年度スタートとなる）

2. 計画趣旨

- 利用者の働く事への喜びや意欲を高め、社会人として地域社会参加の機会や生活の幅を広げることを目指す。
- 職員は利用者の人権を尊重し、専門性の高い支援が行えるよう自らの資質の向上に努める。
- 地域住民との交流を深める機会を通し、理解と協力を得ながら地域福祉向上の拠点となることを目指す。

基本方針	事業計画 (Plan)			
	項目	内容 [数値・実施時期等]		実施責任者
サービスの質の向上	障害特性に応じた支援	利用者の個別課題に応じた班編成を継続し支援目標に沿った日課設定を行う。	年間を通じて	管理職
	就労及び生活支援	働くことの基本的な就労習慣を身につけると共に基本的な生活リズムを整え社会人としての自立を目指す。	年間を通じて	管理職
事業基盤の強化	目標工賃達成	工賃規定に定めた評価基準を元に積極的に登園する意欲につなげ、利用率アップを計り目標工賃20,000円を目指す。	年間を通じて	全職員
	事業の拡充	利用者高齢化による健康面での配慮が必要となっている状況を鑑み、多機能型事業の検討及び、宇治川福祉の園の就Bとの統合検討、支援学校及び関係機関と協議し利用希望者を積極的に受け入れて増員を図る。	随時	管理職
職員の質の向上	研修への参加	行政関係諸団体及び民間諸団体が実施する研修会への参加等については職員の資質向上・情報の収集・資格取得等を目的に、積極的・計画的に実施する。	研修参加は随時	OJT指導者
地域貢献	地域交流	榎福まつり等、地域の行事に積極的に参加し地域住民との交流を深める	随時	全職員
	見守り弁当の推進	地域の協力を得ながら、高齢者との触れ合いに寄与する配食提供を検討し、推進する。	随時	全職員
	実習・見学者の受け入れ	支援学校・地域の小中学校・大学・専門学校・各種団体からの実習や見学を計画的に受け入れる。	年間を通じて	管理職
その他	生活・作業環境整備	安全で安心して生活できる施設環境・作業環境の整備に努める。	年間を通じて	全職員
	配食事業の見直し	きっちん・まきしまの給食提供の有り方検討と弁当配食数の提供増、製菓部門販売の検討を進める。	随時	管理職

「志津川福祉の園」 2020年度事業計画

1. 施設概要

定員：生活介護 20名（21名） ※（ ）年度始時点の実利用者数
 就労継続支援B型 20名（21名）

2. 計画趣旨

- 喜びを感じられるよう利用者主体で就労支援事業を展開する。特に養蚕事業の進展状況により存続させるか否かの見極めと合わせて新しい事業を模索する年度とする。
- 利用者のサービス利用日数の確保に努め、安定した収入を確保し、経営基盤の強化を図る。
- 人権を尊重し虐待を許さない施設としてサービスの質の向上に努める。
- 老朽化する施設や備品に対するメンテナンスと計画的な更新を行う。

基本方針	事業計画 (Plan)			
	項目	内容 [数値・実施時期等]		実施責任者
サービスの質の向上	やりがいを感じられる作業の提供	利用者が見通しを持てる作業を提供して達成感を得られるように支援する。また、花き栽培の他、新しい事業や受託作業の新たな展開を模索する。	通年	管理職 サビ管
	就労支援事業の見直し	養蚕事業について今年度縮小した形で事業は継続し、存続をかけて事業展開を行う。	通年	管理職
	虐待防止の徹底	月1回勉強会を実施して、専門性を習得させ、支援の質を向上させることにより虐待防止の取り組みに繋げる。	通年	管理職 サビ管
事業基盤の強化	安定した施設経営	施設行事、余暇支援、宿泊旅行などで土曜日の開園日数を増やし、利用日数の確保を行い、安定した収入を確保する。 スポーツ大会、地域イベントへの太鼓演奏等による参加により休日の支援を実施する。	通年	管理職
職員の質の向上	施設の規律と組織の体制を確立	管理職、指導職、一般職それぞれの役割と責務を明確にして施設の規律と組織の体制を確立し基盤強化を図る。	通年	管理職
	人材育成の強化	外部研修への計画的参加と法人内研修、施設内での勉強会を行う。	通年	管理職
地域貢献	地域交流及び地域の活性化	「わいわいカーニバル」や志津川陶器まつりを実施することにより地区の活性化を図り、地域住民同士の交流の場としたり、地区外におられる子や孫の帰省につなげる。普段、出かけにくい人も参加しやすいイベントとなるよう工夫する。 また、不耕作農地を活用し農業に取り組み地域の環境保全に寄与する。	各年1回	全職員
	地域活動の協力	地域の集会所清掃及び地域清掃活動や防災訓練等へ積極的に参加する。 干支の贈呈をはじめ、太鼓出演、出店など近隣高齢者施設との交流を図る。	随時 随時	全職員
その他	老朽化する設備、備品の整備	老朽化する設備、備品のメンテナンスと計画的な更新を行う。	通年	管理職

「宇治川福祉の園」令和2年度事業計画

1. 施設概要

定員： 生活介護 30名（36名）
 就労継続支援B型 10名（9名）

※（ ）前年度末時点の実利用者数

2. 計画趣旨

- 周囲との意思疎通や自己決定に丁寧に寄り添った支援が必要な利用者が大部分を占めている。日々の生活リズムを、仲間や職員との活動に積極的に携わることで整えを行い、「生活の主体者」として成長することにつながるための支援を継続してゆく。
- 利用者の現況に合わせて日課・行事等の実施方法について内容的充実を図る。
 （実施にあたっては内容が利用者、ご家族に事前に周知できるよう一層の配慮を心がける）
- 利用者支援に関わって、援助技術の維持・向上につながるよう、積極的に対外的な情報収集を行い検討会議等に参画することを引き続き行う。

基本方針	事業計画 (Plan)			
	項目	内容 [数値・実施時期等]	実施責任者	
サービスの質の向上	利用者が安心して過ごせる日中支援活動の充実	利用者支援場面でグループの小規模分散化を継続。会議・打ち合わせにより課題共有を行って、安定的運営を定着させる。	年間を通じて	管理職 リーダー
		利用者のニーズを把握し、生産的活動・作業外活動両面を充実させ、サービス提供できることを目指す。	年間を通じて	管理職 リーダー
事業基盤の強化	業務手順の標準化	「業務マニュアル」を実情に合った形に改定することを継続し、活用についても見直しを行う。	年間を通じて	管理職 リーダー
	事業の安定化	「重度障害者支援加算」の対象者について検証。手続きを進める。 菓子工房の業務見直しを検討する。 生活介護単独事業化に向けた検討を継続する。	(3名→5名)	管理職
職員の質の向上	チームアプローチ力の強化	小グループ編成を基本に、利用者相互の刺激緩和を図る。 支援部会議などで職員間で共有した情報をもとに、根拠ある丁寧な支援を行う。	年間を通じて	全職員
地域貢献	福祉教育啓発を行う	ふれあい花壇や地域諸団体との交流活動に利用者が積極的に参加できるよう継続実施する。 障害福祉の啓発を目的として、近隣小中学校からの実習を継続して受け入れる。	年間を通じて 花壇年間2回 交流活動4回	管理職 ほか 担当職員
その他	危機管理意識の向上と安全維持	危機管理シートを用いた検証により、安全に対する意識向上を図り、事故予防に努める。	年間を通じて	全職員

「グループホームかさとり」 2020年度事業計画

1. 施設概要 定員：10名（10名） ※（ ）年度始時点の実利用者数

開設から10年を迎え、定員10名満床で推移している。利用者2名が365日利用する状況にあり、年末年始も含め、年間通して職員配置が必要となっている。

2. 計画趣旨

個性を尊重し、明るく生き活きとした共同生活が安心して送れるように支援する。
高齢化と障害の重度化による生活全般の支援の強化が課題となっている。

基本方針	事業計画 (Plan)			
	項目	内容 [数値・実施時期等]	実施責任者	
サービスの質の向上	利用者の思いを受け止める	利用者の思いを聞き、困っていることや思いを受け止めて問題を解決する。 うまく表現することが出来ず自分で判断してよくない方向に行ってしまうような支援が求められる。	通年	管理職 サビ管 支援員 世話人
	支援体制の強化	バックアップ施設と連携し、支援体制を強化する。 休日の外出支援を提供し消耗品等の買い物や家族への面会に配慮する。	通年 月1回	管理職 サビ管 支援員 世話人
事業基盤の強化	年中無休体制の構築	年間を通じて職員を適正に配置することで土曜日曜の日中や通年を通した夜間の宿直体制において利用者が安心して生活できる場を提供する。	通年	管理職 サビ管 支援員 世話人
	地域との連携	急病での救急車要請時や防災の避難時における地域との連携を確立する。 地区の区長や消防団に避難の協力を要請できるような関係性を作る。	通年	管理職
職員の質の向上	研修等への参加	法人内の研修に参加できないことが多く、研修に参加できるような工夫をし、知識の習得や虐待防止等の理解を深めるよう配慮する。	通年	管理職
地域貢献	地元の理解を得る	年1回施設敷地内でバーベキューを行い、地域住民との交流の場を設け、グループホームの現状を理解していただくとともに、地域行事への参加を進める。 地域の小学校の古紙回収事業に協力する。	年1回	全職員
	地域交流	アクトパル宇治の春、秋まつりへの出店販売。	年2回	全職員
その他	保護者との交流	クリスマス会や地域交流への保護者参加により家族との交流を行う。	年2回	全職員
	設備等の修繕	開設10年を迎え設備、備品のメンテナンスや修繕等が必要となっており、費用の負担が課題。	通年	管理者

「地域生活支援室」 2020 年度事業計画

1. 施設概要

- グループホームやましろ（共同生活援助 23名）
グループホームまきしま 6名・巨椋華 10名・サテライト 1名・巨椋蓮 6名
- ショートステイにじいろ(日中一時支援)
- ショートステイ巨椋(短期入所・日中一時支援) 定員 6名
- 居宅介護わくわく(居宅介護・行動援護・同行援護・移動支援)

2. 計画趣旨

- グループホーム毎の利用者像に合わせた支援方法を確立する。
各自ができることを積極的に発揮していける環境づくりと、余暇の充実をはかり、生活の質を高めるよう支援する。個別に必要な支援を明確にして、職員間で共通理解を図る。
- 短期入所は本人の自立生活を体験する場としての役割を果たすと共に、家族の介護負担の軽減に繋がり、必要な時に必要な期間の生活の場を保障することで、利用者の安心した地域生活に繋がっている。
- 日中一時支援は、夕方から夜にかけて食事と入浴を保障し安心して過ごせる場所としてのサービスであり、小集団での生活を体験して必要な支援を掘り起こす機会となっている。
- 居宅サービスについては、利用者の余暇の広がりを保障して、豊かな生活に繋がっている。近年は余暇外出のみならず、通院の付き添いと入浴・家事援助の必要性が高まっている。
- 支援の質の向上を目指して、世話人・ヘルパー・支援員の研修等を重ねる必要がある。

基本方針	事業計画 (Plan)			
	項目	内容 [数値・実施時期等]	実施責任者	
サービスの質の向上	記録業務の省力化	PCソフトの導入により業務日誌と多種記録を連動させ、記録・連絡業務の省力化をはかる。情報の共有により、利用者への丁寧な対応につなげる。	4月～	管理者 生活支援員
	利用者の健康管理	個別の課題に応じた健康チェック項目について確認と経過観察を記録に残して共有する。看護師との情報共有を定例化する。	毎月1回	生活支援員 世話人
	余暇の充実	本人の生活に寄り添い、希望を引き出して具体化につなげる。	年2回	生活支援員
事業基盤の強化	福祉有償運送事業の導入	福祉有償運送を導入して、利用者の外出を支援し、他事業と連携をはかる。	1月	管理者
	短期入所の稼働率向上	目標稼働率を4.5人/日(90泊/月)とし、安定運営に繋げる。	年間	副管理者 生活支援員
	休日の利用を促す	ホームでの休日の利用促進を図ることで、余暇の拡大・充実に繋げる。	随時	生活支援員
	余暇支援の充実	余暇支援の必要な利用者に対応すべくヘルパーの増員をはかり、行動援護・移動支援サービスを増やす。	年2回	サービス提供責任者

職員の質の向上	スタッフミーティングの充実	各部署での会議を定期的を開催して、利用者理解を深めると共に、職員の役割分担と支援の統一をはかる。	月1回	サビ管 生活支援員
	研修の実施	会議での利用者支援を確認すると同時に、より良い支援を目指して、研修の機会を設定する。	年2回	管理者 副管理者
地域貢献	地域の行事へ参加	地域での行事やイベントに積極的に参加して地域交流を図る。	年間	全員
		地元情報の収集と利用者と一緒に出来ることから始める。		全員
その他	危機管理意識の向上	危機管理の認識を高め、備えるために危機管理対応を再確認する。 ヒヤリハットの丁寧な掘り起しと、振り返りの機会を作る。	6月・12月	管理者

「相談支援 まきしまてくてく」令和2年度事業計画

1. 事業所概要

○法人 3 施設の利用者を中心に 131 件の「計画相談」と「地域移行」「地域定着」を展開し、3 施設や地域生活支援室と一体的に利用者の地域生活における相談業務やサービス調整を担っている。

○高い質と専門性を評価する加算の創設に伴い、特定事業所加算、専門性を評価する加算について積極的に取得を目指し一定の成果が見込まれた。

＜契約者数＞

- ・計画相談 131 名
- 3 施設利用者 107 名 その他利用者 24 名
- ・地域定着支援 7 名
- ・地域移行支援 0 名

2. 計画趣旨

○一人ひとりの利用者と向き合い、暮らしに寄り添いながら計画相談、地域定着支援ならびに地域移行支援を提供できる様、相談支援専門員の専門性を深める。

○事業収支は平成 31 年度基本報酬が減額され、赤字基調。各種加算の取得やモニタリング頻度の見直しを図る。

○事業所単独で諸課題を解決せず、引き続き、加算要件の配置基準や利用者支援及び管理に必要なシステムの構築等を一体的に展開していく。

基本方針	事業計画 (Plan)			
	項目	内容[数値・実施時期等]	実施責任者	
サービスの質の向上	迅速なサービス調整 地域の事業所との顔の見える関係づくり 相談支援専門員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・半年モニタリング[※]対象者の10%を3カ月モニタリング[※]に移行する。 ・モニタリング[※]時の事業所訪問を徹底する。 ・権利擁護の観点よりセルフチェックの導入。 	随時 虐待防止研修時	管理職
事業基盤の強化	一体的な事業展開の検討 計画的な相談支援専門員の養成や更新 相談支援専門員の加算要件研修	<ul style="list-style-type: none"> ・職員配置換算に該当しない管理者（施設長等）の相談支援専門員兼務を検討。 ・利用者支援及び管理システムの見直し及び検討。 ・サービス管理責任者及び相談支援専門員の更新を計画的に実施する。 ・職員交換研修等より相談業務について触れる機会を設ける。 ・すべての相談員が強度行動障害支援者養成研修等を受講する。 	随時	管理職
職員の質の向上	宇治市自立支援協議会への参画 京都知的障害者福祉施設協議会への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の諸課題の把握 ・宇治市地域自立支援協議会主催の研修会、報告会等への参加 ・制度理解 ・相談支援専門員の専門性の検討 	定例会月1回 随時	管理職
地域貢献	榎島地域からの相談、受付 地域交流、地域活動の推進、協力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉向上に寄与する。学区福祉委員、民生委員等との意見交換 ・障害福祉分野における専門性の高い相談を随時提供する。 	随時	管理職
その他	困難ケースへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、医療、福祉関係者との連携をより密にする。 ・障害特性に応じた支援に対応すべく圏域でのチーム支援を軸に支援を展開する。 	随時	管理職